

contents

- ・新年のご挨拶
 病院長
 患者支援センター長
- ・平成31年着任教授紹介
- ・診療科紹介
 心臓血管外科、乳腺外科、
 腎臓・リウマチ膠原病内科
- ・年末年始の診療記録
- ・婦人科病棟 第2病棟4階に移転



編集：杏林大学医学部附属病院
〒181-8611 三鷹市新川6-20-2
Tel. 0422-47-5511 (代表)

杏林大学病院

新年のご挨拶

病院長 市村 正一



謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

昨年中は多大なご支援をいただき、誠にありがとうございました。特に、医師の働き方改革の一環から、一部診療科の夜間診療を縮小せざるを得ませんでした。皆様にご協力とご理解を賜り深く感謝申し上げます。

年末には、機能的で最新の設備を備えた婦人科病棟が新しくなり、患者さんの評判も良好のようです。本年は、小児科病棟の改築を計画しております。また、昨年世界でも2台目となる最新のMRI装置が7月から稼働いたしました。本年は高性能の放射線治療機器の導入を予定しております。さらに、1月から消化器・一般外科（下部消化器）と放射線科に新しい教授が赴任するなど、診療面での更なる充実を図ります。

今後も特定機能病院として質の向上を目指すと共に、地域における病院の役割分担を推し進め、皆様と協力して地域医療の発展に貢献する所存です。本年も皆様にとりまして幸多き年になりますよう心からお祈り申し上げます。

副院長・患者支援センター長 塩川 芳昭（脳神経外科）



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。旧年中のあたたかいご支援に心より感謝申し上げますとともに、引き続き本年も変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

当院では2014年より従来の地域医療連携室（地域医療連携係、医療福祉相談係）と入院管理室、看護部外来担当部門を患者支援センターとして統合し、患者さんの流れに沿って、医師・看護師、ソーシャルワーカー、事務職員が一体となって先生方や患者さんの多様なニーズに迅速かつ的確にお応えできるよう活動しております。また、恒例となりました杏林大学医療連携フォーラム（昨年11月に第三回を開催）では、多くの先生方、医療スタッフの皆さまにご参加いただき、院内見学ツアーと新任教授の講演に加えて、新たな企画として野村病院の野村幸史理事長に「杏林大学附属病院の地域医療に望む」をテーマに、熱く三鷹市の地域医療への思いを語っていただき、いずれも聴衆に感銘を与える内容でした。あらためまして御礼申し上げます。ご参加の先生方からは、さらなる外来予約の円滑化や、杏林大学で治療された患者さんの状態変化などに即応した対応を求めるといったご意見をいただいております。患者支援センターの今後の活動につなげてまいりたいと思っております。

少子超高齢社会の進展や社会情勢の変化を反映いたしまして、病院間、病院・診療所間の緊密な連携がますます必要となってまいります。この「杏林大学病院ニュース」の表題右に記されている「地域医療の充実を目指して、関係機関の皆さまとともに」が少しずつでも実を結ぶように、新しい年を迎えるに当たり決意も新たに、取り組みたいと存じます。よろしくお願い申し上げます。

平成31年1月着任 教授紹介



消化器・一般外科
須並 英二

東京大学医学部 卒 博士（医学）
国立がん研究センター中央病院、米国
ジョンウェインがん研究所、
東京大学医学部附属病院講師、日本赤
十字社医療センター外科部長 等

大腸肛門疾患全般、特に大腸癌、炎症性腸疾患、肛門疾患の診断から治療までを手がけます。癌に対しては腹腔鏡手術、ロボット支援手術等の低侵襲手術を中心に、根治性と機能温存を両立させるために集学的治療を重要視しております。そのために他科との連携を大事にしていきたいと思っております。安全で質の高い医療の実践に努めますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



放射線科
(放射線腫瘍学)
江原 威

群馬大学医学部 卒 博士（医学）
静岡県立総合病院、群馬大学医学部附
属病院講師、埼玉医科大学医学部准教
授、群馬県立がんセンター放射線治療
部部長 兼 重粒子治療室長 等

放射線治療は飛躍的に高度化し、治療成績は向上しています。しかし、その認知度および活用度は十分とは言えません。このような状況を打開すべく、本学の放射線治療を充実・発展させ、また、教育を通して人材育成に努めます。診療においては全スタッフと連携し、患者さんを中心とした医療を提供します。

◆ 心臓血管外科



後天性心疾患、胸部大動脈および成人先天性心疾患を担う心臓・胸部大動脈部門と腹部大動脈および末梢動脈疾患を担う腹部大動脈・末梢血管部門の2チームで診療を行っています。

循環器疾患は大きく2つの特徴を持っています。1つは、循環器疾患の発症に多因子が関与し、また、循環器疾患により様々な合併症が発生することです。当科は循環器疾患を単独で治療するのではなく、その他の併存疾患の管理も含め他診療科、および、コメディカルと綿密な連携を取りチーム医療を積極的に行っています。また、当科の中央病棟は循環器内科と合同病棟であり、その専門性に応じて循環器内科と垣根なく診療を行っています。

2つめは、循環器疾患は突然発症し、致命的な経過をたどることがあります。当院は全国でも有数の救命救急センターを有しており、当科も急性大動脈ネットワークにおける重点施設の1つとなっています。休日も含む24時間体制で循環器疾患の緊急症に対応しています。

近年、手術加療を必要とする循環器疾患症例も高齢化しており、当科はより低侵襲な外科治療を取り入れ、特に、大動脈疾患に対しては解剖学的適応があれば人工心肺等を用いず、かつ、小切開で行われるステントグラフト内挿術を積極的に行っています。

今後とも多くの患者さんにより良い医療を提供し、地域医療に貢献できるよう努めてまいります。

◆ 乳腺外科



乳がんを中心として乳腺疾患全般の診断と治療を担当しています。近隣の医療機関で乳がんあるいは乳がんの疑いと診断された患者さんに加え、市区町村の乳がん検診や人間ドックから紹介された方の精密検査にも対応しています。一方で良性と診断された方や術後長期に病状が安定している患者さんについては逆紹介を行い、緊密な病診連携体制を整えています。

近年、乳がん治療は従来の手術療法と薬物療法に加え、CDK4/6阻害剤、PARP阻害剤、免疫チェックポイント阻害剤などの分子標的療法が次々に導入されています。この中で、PARP阻害剤は常染色体優性遺伝であるBRCA1/2遺伝子変異乳がんが適応の対象であり、治療と同時に患者・家族への遺伝カウンセリングが必須となります。今まさにプレジジョンメディシンの時代を迎えて、的確な診断と治療を提供できるよう教職員一同日々努めております。引き続きご指導ご鞭撻の程よろしく申し上げます。

◆ 腎臓・リウマチ膠原病内科



腎臓・膠原病領域の各疾患と透析療法を幅広く担当しています。腎臓病では、さまざまな一次性・二次性腎炎、電解質異常、高血圧疾患、急性腎障害(AKI)、慢性腎臓病(CKD)と透析導入、外来維持透析、末期腎不全の合併症など症例も多く、腎・透析センターやICUにおいて血液・腹膜透析をはじめあらゆる血液浄化療法に対応しています。CKDに対しては、多職種と連携し重症化予防に積極的に取り組んでいます。外来受診時における個別指導のほか、集団腎臓教室・市民公開講座等の教育・啓発イベントも定期的に開催しています。

関節リウマチをはじめとする膠原病は疾患も症状も多彩で、病気はしばしば全身諸臓器に及びます。自己免疫疾患のため、多くでステロイドや免疫抑制薬、生物学的製剤が使用されており、患者さん個々の状態に合わせた専門的治療を心掛けています。なかでも、当施設はANCA関連血管炎の臨床・研究分野において我が国でも草分け的な存在で、全国有数の症例数を誇っています。

年末年始の診療記録



2018年12月28日夕方～
2019年1月4日朝まで

患者数(人)	1,407 (内3次救急67人)
救急車台数	158台 (内3次救急39台)

(内訳1・2次のみ)

診療科	救急総合	内科系	外科系	精神神経科
患者数	473	93	21	7
診療科	小児科	小児外科	脳神経外科	心臓血管外科
患者数	231	1	42	2
診療科	整形外科	皮膚科	形成外科	泌尿器科
患者数	109	41	93	40
診療科	眼科	耳鼻咽喉科	産科婦人科	SCU
患者数	82	70	12	23

婦人科病棟

第2病棟4階にリニューアル移転

より快適な診療・入院環境を提供するため、12月末に第1病棟から移転しました。



安らぎを感じられる、ローズピンクとベージュ色でまとめています。

左：4人部屋、右上：デイルーム、右下：処置室